シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	未来デザインプログラムⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	7つの習慣Ｊテキスト 夢のスケッチブック（WEBアプリ）		出版社	FCEエデュケーション	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	7つの習慣を体系的に学ぶことを通じ、三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」のうち「心」の部分を身につける。		
到達目標	・7つの習慣について、自身の言葉で説明することができる。 ・7つの習慣を自らの生活と紐づけ、前向きな学習態度として体現することができる。		
評価基準	テスト：20%　授業態度：40%　提出物：40%		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	なし		
関連科目	なし		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	清水　彩香	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	専門学校へようこそ！	「未来デザインプログラム」とは何か学ぶ 夢のスケッチブックの使い方を学ぶ
2	SANKOワークコンピテンス	SANKOワークコンピテンスの理解を深める
3	7つの習慣とは？	7つの習慣とは何か学ぶ 夢のスケッチブックを使って日誌を書くことの意味を学ぶ
4	自分制限パラダイムを解除しよう！	自分制限パラダイムの意味について学ぶ
5	自信貯金箱	自信貯金箱の概念を理解する 自分自身との約束を守る大切さを学ぶ
6	刺激と反応	「刺激と反応」の考え方を理解する 主体的に判断・行動していくことの大切さを学ぶ
7	言霊～ことだま～	言葉の持つ力や自分の言動が、描く未来や成功に繋がっていくことを学ぶ
8	影響の輪	集中すべき事、集中すべきでない事を明確にすることの大切さを学ぶ
9	選んだ道と選ばなかった道	自分が決めたことに対して、最後までやり遂げる大切さを学ぶ
10	人生のビジョン	入学時に考えた「卒業後の姿」をより具体的に考え、イメージする
11	大切なこととは？	なりたい自分になるために優先すべき「大切なこと」には、夢の実現や目標達成に直接関係することだけではなく、間接的に必要なこともあることを学ぶ
12	一番大切なことを優先する	スケジュールの立て方を学ぶ 自らが決意したことを実際の行動に移すことの大切さを学ぶ
13	時間管理のマトリクス	第２領域（緊急性はないが重要なこと）を優先したスケジュール管理について学ぶ
14	私的成功の振り返り	前期授業内容（私的成功）の振り返りを行う
15	リーダーシップを発揮する	リーダーシップを発揮するためには、「主体性」が問われることを学ぶ

16	信頼貯金箱	信頼貯金箱の概念を理解し、周囲から信頼されるための考え方を学ぶ
17	割れた窓の理論	規則を守る大切さ、重要性を理解する
18	Win-Winを考える	お互いがハッピーになれる方法を考えることの大切さを学ぶ
19	豊かさマインド	人を思いやることは自分自身のためでもあることを学ぶ
20	理解してから理解される	人の話の聴き方を考え、「理解してから理解される」という考え方があるということを学ぶ
21	相乗効果を発揮する	人と違いがあることに価値があることを学ぶ
22	自分を磨く	自分を磨くことの大切さ、学び続けることの大切さを考える
23	未来は大きく変えられる	人生は選択の連続であり、未来は自分の選択次第であることを学ぶ
24	人生ビジョンを見直そう	将来のなりたい姿を描き、同時にその生活の実現にはお金が必要であることを学ぶ 現実的なライフプランの大切さを理解する
25	未来マップを作ろう①	未来の自分の姿（仕事、家庭、趣味など）を写真や絵で表現するマップを作成し、将来の夢を実現するモチベーションを高める
26	未来マップを作ろう②	未来マップの発表を通して、自身の夢を実現する決意をする
27	感謝の心	人間関係構築/向上の基本である感謝の心について考える
28	7つの習慣授業の復習	7つの習慣の関連性を学ぶとともに、私的成功が公的成功に先立つことを理解する
29	未来デザインプログラムの振り返り	７つの習慣など、未来デザインプログラムで学んだことを復習（知識確認）する
30	2年生に向けて	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	からだの仕組みⅠ		
必修選択	必修	（学則表記）	からだの仕組みⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツ保育科	4	60
使用教材	ぜんぶわかる人体解剖図		出版社	成美堂出版	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	骨と関節、筋についての基本的な構造、運動やスポーツ活動時におけるからだの生理学的な変化や適応現象について学び、保育士・幼稚園教諭・幼児体育指導員となった際にも活用できるように身につける		
到達目標	骨、関節、筋について基本的な構成が説明できる。 運動やスポーツ活動時におけるからだの生理学的な変化や適応現象について説明できる。		
評価基準	テスト/レポート：60%　授業態度：20%　　提出物：20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格			
関連科目	からだの仕組みⅡ		
備考	原則この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	曾根　伸明	実務経験	○
実務内容	アスレティックトレーナーとしてスポーツチームで活動した経験を元に、子どもの特徴や指導技術、配慮など即戦力になるように実践的な授業を展開する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の必要性・目的を説明
2	からだの大枠構造	からだの区分用語・方向用語・骨格概要・内臓の位置関係
3	骨	骨の働き・構造
4	骨	関節の形態と仕組み
5	筋肉	主要な筋肉名、筋の種類、筋肉の構造
6	筋肉	筋肉の構造、主働筋と拮抗筋による関節動作
7	神経	中枢神経・末梢神経、神経伝達の仕組み
8	神経	脳神経・脊髄神経の種類
9	神経	力の調節方法、反射の仕組み
10	呼吸	呼吸器系の概要、呼吸の仕組み
11	呼吸	ガス交換の仕組み
12	心臓	心臓の構造、拍動の仕組み
13	心臓	拍動の仕組み（神経）、拍動の調節
14	まとめ	まとめ
15	まとめ	まとめ

16	循環器系	血管構造、筋ポンプ作用、動脈ポンプ作用
17	循環器系	血液の成分、血漿成分の働き、血球成分の働き
18	循環器系	免疫（抗体）の作られ方、体液の分類
19	循環器系	リンパ管とリンパ節、脾臓の働き
20	消化	摂取物の消化・吸収経路、3大栄養素、5大栄養素
21	消化	口腔の構造、食道・胃・小腸・大腸の構造と働き
22	肝臓・胆嚢・すい臓	肝臓・胆嚢・すい臓の構造と働き
23	腎臓・膀胱	腎臓の構造と働き、膀胱の構造と尿の排出
24	脳	脳の構造
25	脳	からだを動かす際に関連する部位と役割
26	内分泌	主な内分泌器官とホルモン
27	内分泌	ホルモンによる体調・栄養素のコントロール
28	耳	耳の構造と平衡感覚
29	まとめ	まとめ
30	まとめ	まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実技	科目名	からだづくり運動Ⅰ		
必修選択	必修	（学則表記）	からだづくり運動Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツ保育科	2	60
使用教材	【前期】JATI　トレーニング指導者テキスト　実技編 【後期】特になし		出版社	【前期】大修館	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	【前期】トレーニングにより身体運動の理解を深める、習得する 【後期】子ども命を保証できる泳力と知識を取得する		
到達目標	【前期】ストレッチやトレーニングが正しくできる 【後期】50m完泳（得意な泳法）及び25m完泳（2泳法：クロール・背泳ぎ・バタフライ・平泳ぎの何れか）		
評価基準	テスト/レポート：60%　授業態度：20%　　提出物：20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	なし		
関連科目	健康科学、からだの仕組みⅠ		
備考	原則この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	久保　香	実務経験	○
実務内容	スイミングクラブ　水泳水中運動指導、指導者教育（30年）、江東区スポーツ課幼児運動指導（5年）、厚木市スポーツ課高齢者運動指導、高齢者水中運動指導（8年）秦野市スポーツ課地域水泳指導（10年）として勤務した経験を元に、子どもの特徴や指導技術、配慮など即戦力になるように実践的な授業を展開する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	自己の身体要素を自分で変化させる運動・原則の理解
2	ストレッチ・トレーニング	伸ばしている筋肉と主働筋・共同筋・拮抗筋・フォームの理解
3	大胸筋の種目	チェストプレス・バタフライ・ベンチプレス
4	広背筋の種目	ラットプル・シーテッドロー・ワンハンドロー
5	三角筋の種目	ショルダープレス・リアデルト・サイドレイズ
6	上腕二頭筋の種目	アームカール・ダンベルカール
7	上腕三頭筋の種目	プレスダウン・キックバック・フレンチプレス
8	大腿四頭筋の種目	レッグエクステンション・レッグプレス・スクワット
9	ハムストリングスの種目	レッグカール・スティッフレッグドデッドリフト
10	下肢複合種目	フロントランジ・サイドランジ
11	下腿部の種目	スタンディングカーフレイズ・シーテッドカーフレイズ
12	腹部の種目	バキューム・クランチ・シットアップ
13	セット法	サーキットセット（押す種目と引く種目の交互と集中）
14	プログラム作成・実践	ペアでプログラムを作成し合い、それを実践する（妥当性）

15	まとめ	指定した種目を実演し、口頭質問に答える（主働筋・共同筋・拮抗筋など）
16	オリエンテーション	「泳げる」とは：泳ぎの目的と必要性を認識する
17	呼吸力の習得	陸上呼吸と水中呼吸の違い。水圧・恐怖・音など
18	潜水・飛び込み	潜る：リラックス状態での持続時間の延長・足からの飛び込み
19	浮く	各種の浮き身と四肢の動きを連動させ、浮き沈みをコントロール
20	浮きからの移動（平泳ぎ）	ヘルパー使用でクラゲ足平泳ぎ。脱力しながら前移動
21	平泳ぎ	前回からの流れに於いてプルとキックの力のバランス
22	クロール①	プルのリズムと呼吸の連動性
23	クロール②	脱力したキックの確保とプル・キックの連動性
24	バタフライ①	平泳ぎとクロールの連動運動としての泳法の理解
25	バタフライ②	キック・伸び・プルのタイミングの再現性
26	背泳ぎ①	ヘルパー使用背浮きからの移動・体側でのプル（蝶々背泳ぎ）
27	背泳ぎ②	ストロークメインのゆったりした背泳ぎ
28	入水（飛び込み）	足・頭・殿部など不意な入水の体験
29	着衣水泳	水難事故を想定し水着とのギャップを体験し対処法を知る
30	まとめ	自己申告による泳法での５０ｍ（1種）及び２５ｍ（2種）完泳力

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実技	科目名	幼児体育		
必修選択	選択	（学則表記）	幼児体育		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	スポーツ保育科	2	60
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	子どもへの保育、指導に一番必要といっても過言ではない「気づき」や「視点」の基本となる自身の考えを確立するとともに具体的なステップを工夫し、設定できる力をつける。		
到達目標	運動遊びや、体育指導が安全、且つ楽しく進められ、子どもたちがやる気になる環境設定や、 言葉がけができる保育者となる。鉄棒、跳び箱、マット運動における補助法が確実にできる。		
評価基準	テスト/レポート：60%　授業態度：20%　　提出物：20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	こども運動指導者検定（2級）		
関連科目	からだづくり運動Ⅱ		
備考	原則この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	渡邊　光昭	実務経験	○
実務内容	幼児体育企業を経営しながら、自ら保育園、幼稚園での体育指導を通して得た知識や経験を元に、指導法や補助法、安全な環境設定、運動の楽しさの伝達方法などを教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション・ ゲーム遊び・集団行動紹介	授業内容把握、ゲームや集団行動を知る
2	集団行動練習・集団行動実践・リズム体操	集団行動・リズム体操の理解を深める
3	幼児体育指導の内容を理解する	幼児体育模擬授業
4	移動運動・基本運動の実践	多様な動きを習得・実践する
5	マット運動　①	マットに慣れ親しむ遊び・前転・開脚前転・補助法
6	マット運動　②	倒立・側転・補助法
7	マット運動　③　・　平均台	マット運動連続技・平均台
8	鉄棒　①	鉄棒の導入の仕方、補助法
9	鉄棒　②	前回り降り・補助法
10	鉄棒　③	逆上がり・補助法
11	縄跳び①	縄跳び導入・なわ遊び
12	縄跳び②	前跳び・前あや跳び・補助法
13	縄跳び③	長なわ導入・補助法
14	前期のまとめ	前期実施した内容を再確認する
15	実技まとめ	実技まとめ

16	ボール運動①	大・中ボールを操作する
17	ボール運動②	小ボールを操作する・二人組のボール運動
18	ボール運動③	ゲームの運営
19	跳び箱①	開脚跳び・補助法
20	跳び箱②	台上前転・補助法
21	開脚跳び・マット運動指導実践練習	実践練習
22	開脚跳び指導実践①	生徒模擬指導
23	開脚跳び指導実践②	生徒模擬指導
24	マット運動指導実践①	生徒模擬指導
25	マット運動指導実践②	生徒模擬指導
26	保育現場体験実習（模擬指導）①	生徒模擬指導
27	保育現場体験実習（模擬指導）②	生徒模擬指導
28	保育現場体験実習（模擬指導）の感想 ルールある運動遊び（鬼遊び）	模擬指導の振り返り・各種鬼ごっこ
29	サーキット遊び	サーキット遊び実施
30	実技まとめ	実技まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実技	科目名	幼児レクリエーション		
必修選択	選択	（学則表記）	幼児レクリエーション		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツ保育科	2	60
使用教材	楽しさをとおした心の元気づくり -レクリエーション支援の理論と方法-		出版社	（公益財団法人）日本レクリエーション協会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	レクリエーションの楽しさの本質を知り、自ら積極的に授業へ参加取り組み、実践力を身につける 支援者として現場に立つ時に役立つ力を身につける		
到達目標	チャイルドレクリエーションを通して、保育者・幼児体育指導者として理解し楽しく習得し、指導者として実践できるようになる		
評価基準	テスト/レポート：60%　授業態度：20%　　提出物：20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	なし		
関連科目	なし		
備考	原則この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	酒井　みゆき	実務経験	○
実務内容	幼稚園教諭3年・ダンサー歴20年・インストラクター＋コレオグラファー15年・学童保育の経験を元に、レクリエーションを通して幼児・小学生等様々な対象者に対応できるスキルを教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業内容や評価方法等の説明、自己紹介など
2	レクリエーション概論	レクリエーション支援とレクリエーション・インストラクターについて
3	楽しさと心の元気づくりの理論①	楽しさをとおした心の元気づくりと対象者の心の元気
4	楽しさと心の元気づくりの理論②	ライフステージと心の元気づくり
5	楽しさと心の元気づくりの理論③	心の元気づくりと地域のきづな
6	レクリエーション支援の理論①	コミュニケーションと信頼関係づくりの理論
7	レクリエーション支援の理論②	良好な集団づくりの理論
8	レクリエーション支援の理論③	自主的・主体的に楽しむ力を育む理論
9	レクリエーション支援の方法①	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ①
10	レクリエーション支援の方法②	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ②
11	レクリエーション支援の方法③	良好な集団づくりの方法・アイスブレーキング①
12	レクリエーション支援の方法④	良好な集団づくりの方法・アイスブレーキング②
13	レクリエーション支援の方法⑤	アイスブレーキング　生徒模擬指導
14	レクリエーション支援の方法⑥	アイスブレーキング　生徒模擬指導
15	まとめ	前期のまとめ

16	オリエンテーション・前期復習	前期の復習及び後期の授業内容
17	レクリエーション支援の方法⑦	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法①
18	レクリエーション支援の方法⑧	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法②
19	レクリエーション活動の安全管理	安全管理の基本を理解する
20	レクリエーション活動の習得①	ニュースポーツ①
21	レクリエーション活動の習得②	ニュースポーツ②
22	レクリエーション活動の習得③	ニュースポーツ③
23	レクリエーション活動の習得④	伝承遊び（室内・戸外）・カード、カルタゲーム
24	レクリエーション活動の習得⑤	鬼ごっこ・道具を使った遊び
25	対象にあわせたレクリエーションワーク①	幼児にあわせたレクリエーションワークについて理解する
26	対象にあわせたレクリエーションワーク②	幼児にあわせたアレンジ法の応用
27	対象にあわせたレクリエーションワーク③	幼児レクリエーションプログラム内容を考える
28	対象にあわせたレクリエーションワーク④	幼児レクリエーション生徒模擬指導
29	対象にあわせたレクリエーションワーク⑤	幼児レクリエーション生徒模擬指導
30	まとめ	模擬指導の振り返り・後期のまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	音楽Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	音楽Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツ保育科	2	60
使用教材	近大配本テキスト　ピアノ教本・声楽教本・音楽(理論)		出版社	近畿大学九州短期大学教育通信学部	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育現場で必要な音楽の基礎的能力を身につけ、理論と実践の両方を理解し習得する。
到達目標	ピアノを弾く上での基礎を身につけ、音程を正確に歌うことができる。 楽譜の仕組みがわかり、読むことができるようになる。 「生活の歌」「季節の歌」の伴奏・弾き歌いができる。
評価基準	テスト/レポート：60%　授業態度：20%　　提出物：20%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状
関連科目	音楽Ⅱ　音楽Ⅲ
備考	原則この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	佐藤　貴彦　　○
実務内容	レコード会社や音楽スタジオで長年作曲・編曲に携わった経験を元に、保育現場で必要な音楽の基礎的能力を教授する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ピアノを弾くための基礎知識①	ピアノの座り方・正しい手の形・発声の姿勢。楽譜のしくみ①
2	ピアノを弾くための基礎知識②	様々な拍子・リズムを理解し、正しい指づかいで弾く。楽譜のしくみ②
3	ピアノを弾くための基礎知識③	和音・コードネーム。楽譜のしくみ③
4	コードネームによる伴奏法	ハ長調音階・主要三和音。楽譜のしくみ④
5	生活の歌①－１	歌唱・片手奏・左手のコード奏。楽譜のしくみ⑤
6	生活の歌①－２	歌唱・両手奏・左手のコード奏・弾き歌い。
7	生活の歌①－３	生活の歌①確認。季節の歌（4月～5月）歌唱。
8	生活の歌②－１	歌唱・片手奏・左手のコード奏。楽譜のしくみ⑥
9	生活の歌②－２	歌唱・両手奏・左手のコード奏・弾き歌い。
10	生活の歌②－３	生活の歌②確認。季節の歌（6月～7月）歌唱。
11	コードネームによる伴奏法	ト長調音階・主要三和音。楽譜のしくみ⑦
12	生活の歌③－１	歌唱・片手奏・左手のコード奏。楽譜のしくみ⑧
13	生活の歌③－２	歌唱・両手奏・左手のコード奏・弾き歌い。
14	生活の歌③－３	生活の歌③確認。季節の歌（8月～9月）歌唱。

15	まとめ	前期まとめ。
16	コードネームによる伴奏法	へ長調音階・主要三和音。楽譜のしくみ⑨
17	季節の歌①ー1	歌唱・片手奏・左手のコード奏。楽譜のしくみ⑩
18	季節の歌①－２	歌唱・両手奏・左手のコード奏・弾き歌い。
19	季節の歌①ー３	季節の歌①確認。季節の歌（10月～11月）歌唱。
20	コードネームによる伴奏法	ニ長調の音階・主要三和音。楽譜のしくみ⑪
21	季節の歌②－１	歌唱・片手奏・左手のコード奏。楽譜のしくみ⑫
22	季節の歌②ー２	歌唱・両手奏・左手のコード奏・弾き歌い。
23	季節の歌②ー３	季節の歌②確認。季節の歌（12月～1月）歌唱。
24	コードネームによる伴奏法	ハ長調・ト長調・へ長調・ニ長調
25	季節の歌③－１	歌唱・片手奏・左手のコード奏。楽譜のしくみ⑬
26	季節の歌③ー２	歌唱・両手奏・左手のコード奏・弾き歌い。
27	季節の歌③ー３	季節の歌③確認。季節の歌（2月～3月）歌唱。
28	まとめ①	振り返り
29	まとめ②	振り返り
30	まとめ③	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	キャリア教育Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	キャリア教育Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツ保育科	1	15
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	分野・業界を深く知り、社会人として求められる能力を理解し、身につける。
到達目標	社会人として必要なビジネスマナーを身につける。 保育業界・スポーツ業界で必要とする知識を理解し、活躍できる社会人像を考えることができる。 次年度以降の実習並びに就職活動に意欲を持って臨める状態になる。
評価基準	授業態度：20%　／　提出物：50%　／　プレゼン：30%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	
関連科目	キャリア教育Ⅱ・Ⅲ、保育実習Ⅰ・Ⅱ、教育実習
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	就職（活動）とは 実習・就職活動の流れ	なりたい自分（目標）を確認する。キャリア教育の実施内容説明し、実習並びに就職活動に向け、今後自分が何をするのかを知る。
2	社会人基礎力について①	社会人基礎力とは。経済産業省の出している、社会人基礎力チェックの実施 https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html
3	社会人基礎力について② （Action）	前に踏み出す力について解説と、自分自身が挑戦していくべきことを明確にする
4	社会人基礎力について③ （Thinking）	考え抜く力を醸成するためにロジカルThinkingをできるようにしていく
5	社会人基礎力について④ （TeamWork）	仕事として組織で動いていくことの重要性を理解し答えのない世界に対して提案できるようなマインドを知る
6	ビジネスマナー①	言葉遣いと話の聞き方、気配り、態度や姿勢 選考時における服装の違いについて/スーツ・ビジネスカジュアル・私服
7	ビジネスマナー②	訪問時のマナー、封書・手紙の送り方を知る
8	ビジネスマナー③	指示の受け方、報連相の仕方、時間管理の仕方
9	ビジネスマナー④	お茶の出し方、電話対応メモの残し方、クレーム対応について
10	ビジネスマナーのまとめ	ビジネスマナーに関する総まとめ
11	社会人像	理想の保育士・教師像について
12	働くということについて	働くということ、働く意義を知る
13	新着求人の案内 就職サイトや就職雑誌の紹介	学校求人や就職サイトにおける求人情報の検索と就活の進め方を知る
14	ビジネスメールについて	社会人として必要なビジネスメールの基礎について学び、実践できるようにする
15	まとめ 実習・就職活動に向けて	総復習（確認）と実習・就職活動に向けてスケジュールを立てる。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	幼児の心理学		
必修選択	選択	（学則表記）	幼児の心理学		
開講				単位数	時間数
年次	１年	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	『実践に活かす保育の心理学』		出版社	（株）ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	発達段階に合わせた効果的な教育活動のために必要な知識と実践方法を学び、どのように実践にいかすかを考える。
到達目標	・保育・教育実践にかかわる心理学の知識を習得し、説明することができる。 ・乳幼児期の発達段階について理解し、その特徴や課題を説明することができる。 ・乳幼児の遊びや学びについて理解し、説明することができる。 ・乳幼児の発達と周囲のかかわりの関係について理解する。
評価基準	テスト/レポート：60%　授業態度：20%　　提出物：20%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状
関連科目	関連科目特になし
備考	原則この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	中山　麻子	実務経験	○
実務内容	専門学校で学生相談室の相談員として約１０年勤務をした経験を元に、他者受容・共感的理解の力を育む教育を行う。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス	本講義の内容、評価の仕方を知り、何故発達を学ぶのかについて考える。
2	発達を学ぶ意義	発達の定義、心理学の研究方法、「保育の心理学」とは何かについて理解する。
3	子どもの発達と環境	「遺伝」と「環境」が発達に与える影響とその考え方の変遷、子どもを取り巻く環境について理解する。
4	発達理論と子ども観・保育観	子どもとは何か、様々な発達理論と発達観について理解する。
5	身体と運動機能の発育・発達	身体の発育・発達、運動機能の発達について理解する。
6	発達を支えるアタッチメント（1）	「アタッチメント」とは何かについて理解する。
7	発達を支えるアタッチメント（2）	「アタッチメント」の個人差、保育への「アタッチメント」の影響と保育者の関わりについて理解する。
8	自己と感情・情動の発達（1）	一次的感情、二次的感情、自己意識について理解する。
9	自己と感情・情動の発達（2）	「情動調整」とその発達について理解する。
10	社会性の発達（1）	社会性とは何か、選好注視法、二項関係、三項関係、「共同注意」について理解する。
11	社会性の発達（2）	他者を理解するとはどういうことか、保育の中で育つ社会性について理解する。
12	認知の発達（1）	認知とは何か、ピアジェの発達理論について理解する。
13	認知の発達（2）	認知発達について理解する。
14	言語の発達	言語の機能、言語の発達について理解する。

15	前期のまとめ	前期の振り返り
16	発達障害と発達（1）	発達障害の定義、様々な発達障害、「記憶」について理解する。
17	発達障害と発達（2）	「気になる子ども」、早期発見・早期支援の重要性について理解する。
18	虐待から考える発達（1）	虐待とは何か、「マルトリートメント」とは何か、虐待の発達等への影響について理解する。
19	虐待から考える発達（2）	虐待の世代間連鎖、子ども支援・保護者支援・早期発見の重要性や方法について理解します。
20	保育にいかす学習理論（1）	様々な「学習理論」について理解する。
21	保育にいかす学習理論（2）	「学習理論」をどのように保育にいかすかについて考える。
22	遊びの発達（1）	子どもにとっての遊びとはどういうものか、遊びの分類について理解する。
23	遊びの発達（2）	遊びの発達について理解する。
24	乳幼児期の学びの過程と特性（1）	乳幼児期の学びとはどういうものか、エリクソンのライフサイクル理論について理解する。
25	乳幼児期の学びの過程と特性（2）	乳幼児期の発達について、エリクソンのライフサイクル理論から理解する。
26	乳幼児期の学びを支える保育（1）	幼児期に「育みたい資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、小学校との連携について理解する。
27	乳幼児期の学びを支える保育（2）	乳幼児期の学びを支える保育、保護者支援について理解する。
28	後期のまとめ	後期の振り返り
29	まとめと振り返り(1)	一年間のまとめ、レポート
30	まとめと振り返り(2)	総まとめの確認

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	教育原理		
必修選択	選択	（学則表記）	教育原理		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	保育のための教育原理		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	「教育」とは何かを理解し、教育について思想・歴史・制度・内容・評価といった視点から学ぶ。		
到達目標	教育に関する基礎的な内容を理解する。		
評価基準	出席20%　授業毎のミニッツ・ペーパー20%　試験60%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	なし		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	田原　よし乃	実務経験	○
実務内容	大学で教員として２年間勤務をした経験を基に、教育をめぐる理論を具体的な状況と結びつけて考えらるよう教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の確認、教育原理を学ぶ意義
2	教育の本質(1)	教育という概念、教育の目的
3	教育の本質(2)	教育と家族
4	教育思想(1)	西洋の教育思想
5	教育思想(2)	日本の教育思想
6	まとめ	第1回からの第5回までのまとめ
7	教育の歴史(1)	江戸期の教育、近代教育制度
8	教育の歴史(2)	戦時下の教育、戦後教育
9	教育の制度と行政(1)	日本国憲法、教育基本法、学習指導要領
10	教育の制度と行政(2)	幼稚園教育要領、保育所保育指針
11	諸外国における教育(1)	諸外国における教育・保育
12	諸外国における教育(2)	諸外国における多様な保育実践
13	まとめ	第7回からの第12回までのまとめ
14	前期の総まとめ	前期の総まとめと試験

15	前期試験返却	前期試験の返却、前期のふりかえり
16	教育の方法(1)	一斉教授、子どもの「経験」
17	教育の方法(2)	乳幼児期の教育方法
18	教育の内容（1）	教育内容の基礎
19	教育の内容（2）	教育内容の実際（学習指導要領、乳幼児期の教育内容）
20	教育計画と評価（1）	教育の計画（政策）
21	教育計画と評価（2）	計画と評価
22	まとめ	第１６回から第２１回までのまとめ
23	現代社会と生涯教育(1)	生涯学習の概念と理念
24	現代社会と生涯教育(2)	地域社会における生涯学習
25	現代の教育課題(1)	学びの場の多様化、教員養成・保育者養成
26	現代の教育課題(2)	学校安全への対応、教育の情報化
27	連携による教育・保育	幼保小の連携
28	まとめ	第２３回からの第２７回までのまとめ
29	後期の総まとめ	後期の総まとめと試験
30	後期試験返却と１年間のまとめ	後期試験の返却、１年間のまとめ

シラバス

科目の基礎情報1					
授業形態	講義	科目名	教育課程総論		
必修選択	選択	（学則表記）	教育課程総論		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツ保育科	4	60
使用教材	あたらしい幼児教育課程総論		出版社	同文書院	

科目の基礎情報2			
授業のねらい	教育課程の基礎的理念である幼児期の特質や教育課程の目的、編成、指導計画の作成について学ぶ		
到達目標	教育課程の基本的な内容を理解して、幼稚園教育要領の5領域配慮して指導計画が作成することができる		
評価基準	テスト/レポート：60%　授業態度：20%　　提出物：20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	なし		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	瑞慶覧　洸太	実務経験	○
実務内容	公立・私立の高校や教育委員会・大学で主事や講師として5年間勤務をした経験を基に、幼児期の特質や教育課程の目的、編成、指導計画の作成について教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	指針や教育要領の総則について1　テキストP1
2	乳幼児期の発達課題を理解する	指針や教育要領の総則について2　テキストP1
3	生涯学習における幼児期の意義1	教育基本法について1　テキストP12
4	生涯学習における幼児期の意義2	教育基本法について2　テキストP12
5	教育課程の概念と幼児教育の概念	教育課程の概念と幼児教育の概念　テキストP22
6	教育課程改革の理念について	教育課程改革の理念　テキストP22
7	幼稚園教育と保育所教育1	幼稚園教育と保育所教育1　テキストP39-48
8	幼稚園教育と保育所教育2	幼稚園教育と保育所教育2　テキストP39-48
9	教育課程に関する法制度	教育課程に関する法制度　テキストP48-60
10	幼稚園教育課程の基準の変遷	幼稚園教育課程の基準の変遷　テキストP60-65
11	幼児教育課程の基本1	幼児教育課程の基本1　テキストP79-85
12	幼児教育課程の基本2	幼児教育課程の基本2　テキストP85-90
13	幼児教育課程の基本3	幼児教育課程の基本3　テキストP90-95
14	前期のまとめ講義	前期のまとめ　テキストP1-95
15	総まとめ	総まとめ　テキスト＆AL技法で使用した資料の持ち込み可

16	幼児教育課程の基本4	幼児教育課程の基本4　テキストP93-95
17	「遊び」のとらえかた1	「遊び」のとらえかた1　テキストP101-111
18	「遊び」のとらえかた2	「遊び」のとらえかた2　テキストP101-111
19	「楽しさ」のとらえかた	「楽しさ」のとらえかた　テキストP101-111
20	幼稚園教育の目的・目標	幼稚園教育の目的・目標　テキストP121-123
21	園の教育目標	園の教育目標　テキストP123-126
22	ねらいと内容1	ねらいと内容1　テキストP126-132
23	ねらいと内容2	ねらいと内容2　テキストP126-132
24	教育課程編成の手順	教育課程編成の手順　テキストP141-156
25	指導計画の意義	指導計画の意義　テキストP141-156
26	指導計画の作成1	指導計画の作成1　テキストP141-156
27	指導計画の作成2	指導計画の作成2　テキストP141-156
28	教育課程と指導計画の実例	教育課程と指導計画の実例　テキストP156-190
29	後期のまとめ講義	後期のまとめ　テキストP93-190
30	総まとめ	総まとめ　テキスト＆AL技法で使用した資料の持ち込み可

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	教育方法論		
必修選択	選択	（学則表記）	教育方法論		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	幼児教育・保育のための教育方法論		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	幼児期にふさわしい保育の内容、方法を理解する。		
到達目標	幼児期の教育方法の基本を理解し、保育者としての資質向上につなげていくことを目標とする。		
評価基準	テスト/レポート：60%　授業態度：20%　　提出物：20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	なし		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	田原　よし乃	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・教育方法論を学ぶ意義
2	教育方法の基礎理論（1）	「当たり前」にある幼児教育・保育の再考
3	教育方法の基礎理論（2）	幼稚園の歴史的意義と教育方法
4	日本の幼児教育方法の歴史（1）	前近代の社会と子育て
5	日本の幼児教育方法の歴史（2）	近代日本における幼稚園の歴史
6	環境を通して行う教育（1）	「環境を通して行う教育」の原理
7	環境を通して行う教育（2）	「環境を通して行う教育」から見る教育方法
8	まとめ	第1回から第7回のまとめ
9	子どもの育ちと物的環境	アフォーダンスとシグニファイア
10	子どもの育ちと人的環境（1）	子どもの他者理解の仕方と教育方法
11	子どもの育ちと人的環境（2）	人的環境としての保育者
12	子どもの育ちと社会的環境（1）	地域社会と子どもの育ち
13	子どもの育ちと社会的環境（2）	地域の伝統行事と保育
14	前期の総まとめと前期試験	前期の総まとめと前期試験
15	前期試験返却	前期試験の返却と解説、前期のふりかえり

16	幼児教育・保育における計画と評価	指導計画を作ること・保育における「評価」の意義
17	幼児教育とカリキュラム（1）	「生きる力」と「カリキュラム・マネジメント」
18	幼児教育とカリキュラム（2）	幼稚園の教育課程、幼保小連携
19	幼児理解に基づいた評価（1）	「幼児理解に基づいた評価」の考え方と方法
20	幼児理解に基づいた評価（2）	保育記録とその活用
21	主体的・対話的で深い学びと教育方法	「主体的・対話的で深い学び」の内容と教育方法との関係
22	まとめ	第16回から第21回までのまとめ
23	幼児教育・保育における遊び	遊びを通した指導方法
24	幼児教育・保育におけるICT機器活用（1）	幼児教育・保育におけるICT機器の普及状況と課題
25	幼児教育・保育におけるICT機器活用（2）	ICT機器を活用した幼児教育・保育実践
26	情報活用能力と幼児教育・保育	情報活用能力と幼児教育・保育をめぐる諸課題
27	幼児教育・保育のこれから（1）	これからの幼児教育・保育の方向性
28	幼児教育・保育のこれから（2）	「保育の質」と日本の幼児教育・保育の特徴
29	後期のまとめと後期試験	後期のまとめと後期試験
30	後期試験の返却と1年間の振り返り	後期試験の返却と解説、1年間の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	社会福祉		
必修選択	選択	（学則表記）	社会福祉		
開講				単位数	時間数
年次	１年	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	コメディカルのための社会福祉概論　第５班		出版社	講談社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	対人援助の基礎や生活を維持するための社会福祉の制度を学ぶ
到達目標	現代の社会福祉において何が問題であるか考える力をつける
評価基準	テスト/レポート：60%　授業態度：20%　　提出物：20%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状
関連科目	なし
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	橋本　圭介
実務経験	○
実務内容	埼玉県福祉サービス第三者評価調査員　社会福祉法人友愛会理事長　一般社団法人日本保育教育研究会理事の経験を元に、児童以外にも多岐に渡る対象者の社会福祉制度を教授する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	社会福祉とは	オリエンテーション・社会福祉の意味
2	社会福祉の歴史	イギリス社会福祉の歴史
3	日本の社会福祉の歴史1	古代・中世・近世の歴史変遷
4	日本の社会福祉の歴史2	戦争と社会福祉
5	現代の社会福祉	措置から契約という考え方
6	社会福祉制度1	社会保障・社会保険について
7	社会福祉制度2	公的扶助・福祉の種類等
8	子ども福祉1	子どもにかかわる法と制度
9	子ども福祉2	児童虐待・子どもの貧困・ひとり親支援
10	障がい者福祉1	障がいとは何か、そして誰のことか
11	障がい者福祉2	障がい者福祉制度の変遷
12	高齢者福祉1	高齢者を取り巻く状況
13	高齢者福祉2	高齢者福祉の制度
14	まとめ	まとめ
15	まとめ	まとめ・レポート作成

16	低所得者福祉1	貧困・生活保護
17	低所得者福祉2	生活保護関連事業や支援
18	地域福祉	地域福祉とは何か
19	医療福祉1	医療保険制度について
20	医療福祉2	医療機関機能・医療ソーシャルワーカー
21	精神保健福祉	精神障害を取り巻く状況
22	社会福祉施設	社会福祉施設の機能や目的
23	社会福祉従事者	社会福祉従事者の種類と仕事内容
24	ソーシャルワーク1	相談援助の価値と倫理
25	ソーシャルワーク2	バイステックの原則
26	他職種連携	ケースワークについて
27	ケースワーク	事例分析
28	まとめ	後期総括
29	まとめ	まとめ
30	総まとめ	1年を振り返って　レポートの作成

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	社会的養護Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	社会的養護Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	新・基本保育シリーズ6　社会的養護Ⅰ		出版社	中央法規	

科目の基礎情報②

授業のねらい	養護施設の子どもたちの背景を理解し、児童虐待を理解する
到達目標	社会的養護の基礎を理解する
評価基準	テスト/レポート：60%　授業態度：20%　　提出物：20%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状
関連科目	なし
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	橋本　圭介
実務経験	○
実務内容	埼玉県福祉サービス第三者評価調査員　社会福祉法人友愛会理事長　一般社団法人日本保育教育研究会理事の経験を元に、児童虐待、社会的養護の基礎知識を教授する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	社会的養護内容とは何か
2	社会的養護の理念	社会的養護内容の理念と原理について
3	社会的養護の理念歴史1	イギリス・アメリカ・日本の社会養護の歴史
4	社会的養護の理念歴史2	社会は子どもをどのように見てきたのか
5	児童福祉の一分野の養護1	養護問題と家庭
6	児童福祉の一分野の養護2	家庭支援
7	児童の権利擁護1	子どもの権利と捉え方
8	児童の権利擁護2	社会的養護における子どもの人権
9	社会的養護の制度	児童福祉と措置
10	社会的養護の法体系	児童福祉法等
11	社会的養護のしくみ	基本的なしくみについて
12	社会的養護の実施	社会的養護の理念と原理について実施体系
13	家庭養護	施設から家庭へ
14	施設養護	養護の種類や課題について
15	まとめ	前期のまとめ
16	社会的養護の専門職	資格や酒類
17	社会的養護の専門職実施者	施設内職員や連携職種について
18	施設養護の基本原理1	社会的養護の理念について

19	施設養護の基本原理2	社会的養護の理念と原理について
20	社会的養護の実際1	入所でのケア
21	社会的養護の実際2	支援で重要なこと
22	施設養護とソーシャルワーク1	ソーシャルワークについて
23	施設養護とソーシャルワーク2	相談のプロセス
24	施設等の運営管理	児童福祉法関連事業
25	施設の現状と課題	施設の財源
26	倫理の確立1	価値と倫理
27	倫理の確立2	職業倫理
28	児童養護施設での虐待	施設内虐待の防止について考える
29	社会的養護と地域福祉	現状と課題
30	総まとめ	1年間の振り返り・総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	図画工作Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	図画工作Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツ保育科	1	30
使用教材	（近大配本テキスト）図画工作		出版社	近畿大学九州短期大学	

科目の基礎情報②

授業のねらい	造形表現に必要とされる基礎的な理論や技法を学び，造形能力や感性を高める		
到達目標	実際の現場（幼稚園・保育所）で活かせるよう、子ども達への対応や楽しみ方を学ぶ		
評価基準	テスト/レポート：60%　授業態度：20%　　提出物：20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	造形表現（指導法）		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	佐藤　博美	実務経験	○
実務内容	幼稚園・保育所の現場勤務をした経験を元に、造形表現に必要とされる基礎的な理論や技法を教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション　自由に描いてみる	保育現場における図画工作の意義(授業の意味)について
2	造形・形態・色彩について	造形表現の基本的理論を理解する
3	材料と用具について 表現技法⑴スクラッチ	造形で用いられる材料と道具の基本を理解する
4	表現技法⑵コラージュ	コラージュの方法を理解し、制作を行う
5	写生をしてみる	鉛筆と画用紙を用いて、写生を行う
6	表現技法⑶水彩	水彩の基本的な方法や道具を理解する
7	表現技法⑶水彩	水彩を用いた絵画の制作を行う
8	表現技法⑷ドリッピング	ドリッピングの方法を理解し、制作を行う
9	表現技法⑸フロッタージュ	フロッタージュの方法を理解し、制作を行う
10	表現技法⑹デカルコマニ	デカルコマニの方法を理解し、制作を行う
11	表現技法⑺バチック	バチックの方法を理解し、制作を行う
12	自画像(友達)を描く	顔の形態、表情などを理解し、自画像の制作を行う
13	廃材で工作をつくる	多様な廃材について学び、現場で使える工作に取り組む
14	まとめ①	これまでの技法を複合的に用いた制作を行う
15	まとめ②	これまでの制作を振り返り、まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実技	科目名	造形表現（指導法）		
必修選択	選択	（学則表記）	造形表現（指導法）		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツ保育科	1	30
使用教材	造形表現(指導法)		出版社	近畿大学九州短期大学	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	造形教育が幼児教育の分野の中に占める位置の重要さについて学ぶ		
到達目標	造形表現の基本的な技術を習得する		
評価基準	テスト/レポート：60%　授業態度：20%　　提出物：20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	図画工作Ⅱ、図画工作Ⅲ		
備考	原則この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員		実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	幼児の造形教育史	幼児の造形教育史について
2	幼児造形の原理	幼児造形の原理について
3	表現の指導①	表現の指導、指導計画、指導過程、指導上の留意点、作品製作、教材について
4	表現の指導②	
5	指導計画	
6	指導課程	
7	指導形態 指導上の留意点	
8	評価	
9	評価	表現の指導、指導計画、指導過程、指導上の留意点、作品製作、教材について
10	作品製作	
11	作品評価	
12	教材と実践①	
13	教材と実践②	
14	教材と実践③	
15	作品提出 評価とまとめ	

シラバス

科目の基礎情報1					
授業形態	講義	科目名	幼児と言葉		
必修選択	選択	（学則表記）	幼児と言葉		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	幼児と言葉		出版社		

科目の基礎情報2	
授業のねらい	1.子どもの成長と言葉の発達の関連性を理解する 2.言葉の育ちの観点から子どもの実態に応じた指導の方法を知る
到達目標	1.保育に関する領域「言語」の意義・ねらい・内容を理解する 2.発達段階を踏まえ「言葉」に関する指導についての基盤を養う 3.言葉に対する総合的活動等を通して指導方法を理解する
評価基準	テスト/レポート：60%　授業態度：20%　　提出物：20%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状
関連科目	健康科学、幼児と環境、造形表現（指導法）、幼児と人間関係
備考	原則この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	實方　徹平 ／ 実務経験：○
実務内容	認可保育所・児童厚生施設・放課後児童クラブで保育士として10年、社会福祉法人本部職員として4年勤務をした経験を元に、子どもの成長発達や発達課題、保育内容、保育方法を教授する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	言葉とは	授業オリエンテーション「言葉」とは
2	人の生活と「言葉」	人の生活と「言葉」の関わりを考える
3	言葉の発達と環境Ⅰ	成長に伴う言語の発達（0歳～2歳頃）
4	言葉の発達と環境Ⅱ	成長に伴う言語の発達（3歳～）
5	言葉の発達と環境Ⅲ	成長に伴う言語の発達（6歳～）
6	言葉の面にあらわれた問題と理解	言葉の問題に表れた問題のある幼児の保育
7	要領、指針、教育・保育要領よりⅠ	幼稚園・保育所・認定こども園の特徴
8	要領、指針、教育・保育要領よりⅡ	育みたい資質・能力1
9	要領、指針、教育・保育要領よりⅢ	育みたい資質・能力2
10	領域「言葉」の具体的な内容Ⅰ	1歳から3歳未満の言葉1
11	領域「言葉」の具体的な内容Ⅱ	1歳から3歳未満の言葉2
12	領域「言葉」の具体的な内容Ⅰ	3歳以上の言葉1
13	領域「言葉」の具体的な内容Ⅱ	3歳以上の言葉2
14	言葉かけを中心としての援助とかかわりⅠ	0.1.2.3歳児と保育者のかかわり1

15	中間まとめ	振り返り
16	言葉かけを中心としての援助とかかわりⅡ	0.1.2.3歳児と保育者のかかわり2
17	言葉かけを中心としての援助とかかわりⅠ	4.5歳児の活動と保育者の関わり1
18	言葉かけを中心としての援助とかかわりⅡ	4.5歳児の活動と保育者の関わり2
19	文字と書き言葉	文字への興味とかかわり
20	文字と書き言葉	話し言葉と書き言葉
21	お話・絵本	「お話」「絵本」の意義　　P124～
22	お話・絵本	「お話」「絵本」の選び方、読み方
23	紙芝居	「紙芝居」意義と選び方　　Ｐ131～
24	紙芝居	「紙芝居」の選び方と読み方
25	お話・絵本・紙芝居	「お話」「絵本」「紙芝居」を実際に読んでみる
26	発表準備	発表のためのグループ練習
27	グループ発表	グループ発表
28	グループ発表	グループ発表
29	保育の現場での言葉の大切さ	保育現場での「言葉」の大切さについて考える
30	まとめ	「言葉」のまとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	幼児と環境		
必修選択	選択	（学則表記）	幼児と環境		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	新しい保育講座９保育内容「環境」		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	乳幼児の心身の成長において自然環境や社会環境や人的環境が重要な役割を果たしていることを理解する。その上で、自然環境を活かした保育の方法や、環境構成の考え方について学ぶ		
到達目標	1.子どもたちに影響を与える環境の現状・問題について説明することができる 2.現在の環境で子どもたちが生きる力を養うための工夫、自然体験・社会体験などの具体的生活体験を重視した保育や子どもの自然との関わりを深める保育を自ら設定して、実践的に指導することができる 3.様々な観察を通して、観察力・集中力を身に付けることができる		
評価基準	テスト/レポート：60%　授業態度：20%　　提出物：20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	健康科学、造形表現（指導法）、幼児と人間関係、幼児と言葉		
備考	原則この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	嶌田　貞子	実務経験	○
実務内容	幼稚園教諭・保育士として20年以上勤務をした経験を元に、自然環境を生かした保育の方法や環境の考え方について教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	授業ガイダンス	授業オリエンテーション「環境」とは
2	保育の基本と「領域」の意義	保育の基本と「領域」の意義 5領域について
3		幼児期に育みたい資質・能力の3つの柱について 0歳児の3つの視点
4		領域「環境」のねらい及び内容 「ねらい」と内容について考える
5		保育における評価の考え方 評価とは何か、考え方について理解する
6	子どもを取り巻く環境	子どもを取り巻く環境って 環境を考える視点
7		5つの視点から年齢ごとの取り組み（0歳児）
8		5つの視点から年齢ごとの取り組み（1歳児）
9	子どもを取り巻く環境	5つの視点から年齢ごとの取り組み（2歳児）
10		5つの視点から年齢ごとの取り組み（幼児クラス）
11		あらためて子どもを取り巻く環境とは

12	身近な環境とのかかわりと感性の育ち	手で感じる 気になるからかかわり続ける
13		自分でいろいろに感じ取る
14		「感じる」を根っこにして育つ子どもたち
15		体験してみよう「泥団子」つくり 前期振り返り
16	モノとのかかわりを通して生まれる育ち（学び）	モノとのかかわりを通して生まれる育ち・学びとは
17		紙コップを使って遊ぶ
18		モノとは
19		モノとのかかわりを支える保育者とは
20	自然とのかかわりを通して生まれる育ち（学び）	なぜ「自然」とかかわることが大切なのか
21		自然とのかかわりの中身①
22		自然とのかかわりの中身②
23		自然とのかかわりを通した経験内容①
24		自然とのかかわりを通した経験内容②
25		自然とのかかわりを通して生まれる育ち（学び）
26	社会とのかかわりを通して生まれる育ち（学び）	社会とのかかわり
27		環境から見えてくる「社会」と社会とのかかわり方①
28		環境から見えてくる「社会」と社会とのかかわり方②
29	小学校教育のつながり	保育と小学校教育とのかかわり
30	まとめ	1年間のまとめ「環境」とは

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	幼児と人間関係		
必修選択	選択	（学則表記）	幼児と人間関係		
開講				単位数	時間数
年次	１年	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	幼児と人間関係　ー保育者をめざすー		出版社	同文書院	

科目の基礎情報②

授業のねらい	幼稚園教育要領の領域「人間関係」について、乳幼児期の人間関係の発達の特質をふまえ、保育における人とのかかわりを育むための保育内容の指導法を実践的に理解する		
到達目標	1.幼稚園教育要領の領域「人間関係」のねらいと内容を理解する 2.保育実践における保育内容「人間関係」の指導のあり方を理解する		
評価基準	テスト/レポート：60%　授業態度：20%　提出物：20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	健康科学、造形表現（指導法）、幼児と環境、幼児と言葉		
備考	原則この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	中山　麻子	実務経験	○
実務内容	専門学校で学生相談室の相談員として約１０年勤務をした経験を元に、保育における人とのかかわりを育むよう、保育内容の指導法を教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	授業ガイダンス	本講義の内容、評価方法。「人間関係」とは
2	領域「人間関係」の社会的背景	家族、地域社会の変化 子ども・若者の「個性」と「人間関係」
3		社会的存在としての自己
4	子どもの発達と人間関係	乳幼児期における人間関係の理解 ライフスタイルから見た乳幼児の「発達課題」
5		子ども同士の人間関係
6	領域「人間関係」ねらいと内容「幼稚園教育要領」を中心に	幼児期に育むべき資質と能力 領域「人間関係」の「ねらい及び内容」の考え方
7		領域「人間関係」の内容
8		
9	保育者のかかわり方と集団づくり	年齢による発達段階と人間関係の特徴
10		保育者が行う集団づくり 個を見る視点と集団を見る視点
11	対話から生まれる「協同的な学び」	「個」と「集団」の関係について
12		協同的な学びと遊び 対話によって展開した「協同的な学び」の実践
13	幼児教育・保育における子ども同士の関係	友だち関係の息苦しさ 「みんな仲良く」から「排除しない」関係へ
14		保育者としての「集団作り」
15	まとめ	まとめ

16	子どものかかわりを通した幼児理解と評価	保育の質と保育者/子どもの関係・関わりを通した幼児理解
17		領域「人間関係」における評価の視点
18	特別な支援を必要とする子どもの援助	障がいのある子どもの理解
19		
20		その他の特別なニーズのある子どもたちの理解 特別な支援が必要な子どもを「包み込む」保育・教育
21	子どもの家庭背景を踏まえた幼児教育・保育の視点	家庭の多様性
22		子どもの育ちに対する家庭の影響
23		子どもの家庭支援の重要性
24	幼児教育・保育と小学校との接続の課題	小学校移行の考え方
25		保育現場における実践を考える
26	幼児教育・保育における性をめぐる課題	保育所保育指針における性 性の多様性/「隠されたメッセージ」への配慮
27		乳幼児期からの「包括的性教育」 性をめぐる子どもたちとの対話
28	多文化共生社会における幼児教育・保育の課題	グローバル化する世界 日本の公立学校における外国人児童生徒の現況
29		幼児教育における多文化共生
30	1年間のまとめ	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	教職概論		
必修選択	選択	（学則表記）	教職概論		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	新訂 教職入門　未来の教師に向けて		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②

授業のねらい	教職の意義や教員の役割、職務内容などについて学ぶ		
到達目標	教職につく上で必要となる基礎的な内容を理解する		
評価基準	テスト/レポート：60%　授業態度：20%　　提出物：20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	教育原理、教育課程総論、教育相談　等		
備考	原則この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	田原　よし乃	実務経験	○
実務内容	大学で教員として2年間勤務をした経験を基に、教育をめぐる理論を具体的な状況と結びつけて考えられるよう教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	試験・レポートについて、教職概論を学ぶ意義
2	教育とは何か	「教育」とは何か、「教師」とは何か
3	教職とは何か(1)	なぜ教師になりたいか、教師としての資質能力
4	教職とは何か(2)	教師としての生活
5	まとめ	第1回から第4回のまとめ、レポート
6	日本における教師の歴史(1)	近代的学校制度の創設と教師
7	日本における教師の歴史(2)	国家主義的教育体制の確立下における教師
8	日本における教師の歴史(3)	大正期の教育
9	日本における教師の歴史(4)	戦時下の教師
10	日本における教師の歴史(5)	戦後の教師
11	まとめ	第6回から第10回のまとめ
12	現代社会の子ども(1)	子どもの社会的発達とその環境
13	現代社会の子ども(2)	地域社会の教育力、地域との連携体制の整備
14	前期の総まとめ	前期のまとめと振り返り
15	前期の振り返り	

16	園での生活と遊び(1)	クラス担任の1日と1年
17	園での生活と遊び(2)	保育のなかでの遊び
18	学校にかかわりをもつ人々	「チームとしての学校」とその教職員
19	カウンセリングマインド(1)(2)	ロジャースのカウンセリングマインド 保育のなかのカウンセリングマインド
20		
21		
22	教師をめぐる新しい動き(1)	グローバル化のなかでの教師の役割
23	教師をめぐる新しい動き(2)	情報化のなかでの教師の役割
24	まとめ	第16回から第23回までのまとめ
25	教師をめぐる法律	教育に関わる法令、教師の身分と服務規程
26	教育改革とこれからの教師	教育制度改革、教育をめぐる現状とこれから
27	教職の専門性と研修(1)	教師として求められる専門性
28	教職の専門性と研修(2)	研修の必要性とその種類
29	後期の総まとめ	後期の総まとめ
30	1年間の振り返り	1年間の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	健康科学		
必修選択	選択	（学則表記）	健康科学		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	生涯スポーツ・健康科学		出版社	近畿大学九州短期大学	

科目の基礎情報②

授業のねらい	健康維持や体力向上に対するスポーツ活動の持つ教育的意義を学ぶ		
到達目標	上記授業ねらいの説明並びに「生涯スポーツ」「Sports for all」の理念を推進していく上での条件整備のあり方について考えることができる		
評価基準	テスト/レポート：60%　授業態度：20%　　提出物：20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	幼児体育		
備考	原則この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	大久保　寛之	実務経験	○
実務内容	大学院などの研究経験を活かし、大手フィットネスクラブなどで講義を実施。身体の各部位の適応反応の把握知識を元に、健康や生活習慣、運動との関連性について教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	スポーツの意義	スポーツのあり方について
3	スポーツの意義	学生生活とスポーツ
4	スポーツの意義	生涯スポーツ
5	スポーツの課題	商業主義とスポーツ
6	スポーツの課題	勝利至上主義とスポーツ
7	スポーツの課題	スポーツに関わる今日的課題
8	現代社会の特徴	健康の捉え方
9	現代社会の特徴	スポーツ実践と健康との関わり
10	レポートについて	レポートとは
11	レポートについて	レポート作成に必要な準備
12	資料収集・レポート作成	資料，文献の熟読
13	資料収集・レポート作成	内容構成の検討
14	資料収集・レポート作成	レポートの完成に向けて
15	まとめ	まとめ

16	オリエンテーション	オリエンテーション
17	スポーツの概念	スポーツの概念
18	社会生活の変化とスポーツ	余暇社会とスポーツ
19	社会生活の変化とスポーツ	地域社会とスポーツ
20	スポーツ参加の現状と課題	国民のレジャー活動とスポーツ
21	スポーツ参加の現状と課題	国民スポーツの諸相
22	スポーツ参加の現状と課題	国民スポーツ発展のために
23	健康の概念	健康の概念
24	健康の概念	WHOの「健康」定義
25	健康・体力と運動	運動不足の実態
26	健康・体力と運動	身体運動と健康
27	健康・体力と運動	体力の概念
28	生活におけるトレーニング	運動処方
29	生活におけるトレーニング	トレーニングの科学的基礎
30	まとめ	まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	サービスラーニング演習Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	サービスラーニング演習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツ保育科	1	15
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	イベント運営の一員として参加者へ喜んでもらうこと・楽しんでもらうことを体感し「ささえるスポーツ」の楽しさを知り、社会的活動を通して社会人として必要な資質・能力を高めることができる。
到達目標	コミュニケーション能力を身に付けることができる イベント運営者の1人として責任を果たす行動をとることができる 多くの人と1つのものを創り上げることができる
評価基準	規定時間到達（50%）、事前事後課題及び報告書の提出（50%）
認定条件	出席が規定時間数に達している者
関連資格	日本スポーツボランティアネットワーク認定　スポーツボランティア研修会
関連科目	なし
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	加藤　美保
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	スポーツボランティア研修会事前学習	スポーツボランティアの目的・ねらいの理解 スポーツボランティア参加の必要性
2	スポーツボランティア研修会	原則、履修者は参加
3	スポーツボランティア研修会事後学習	スポーツボランティア研修会で学んだことのアウトプット（感想文800文字以上）
4	事前学習	参加するボランティアの概要、当日の流れをの把握（ボランティアの概要と目標シートの提出）
5	ボランティア	実際にボランティアへ参加する（大会引率・運営協力など）
6	事後学習	実施報告書と活動証明書を作成し提出 活動報告会の実施（グループディスカッションなどを通して発表）
7	※計15単位時間を満たすこと	

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	総合演習Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	総合演習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	１年	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	・保育指導案大百科事典 ・実習日誌の書き方		出版社	一藝社	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	保育教職実習に関して、実習概要や実習前に学んでおくべき知識、実習日誌の書き方などを含めた実習全般について理解する。		
到達目標	保育教職に携わるという事はどういうことなのかが理解できている 保育教職の知識を子どもたちの興味を引く保育内容に変化させて表現することができる 身体的にも精神的にも「自分としてのベスト」を尽くせる状態で次年度の実習に参加することができる		
評価基準	テストレポート：60%　　授業態度：20%　　提出物：20%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	教育方法論、教育実習、保育実習Ⅰ・Ⅱ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	白相　奈津子	実務経験	○
実務内容	保育園で36年、内園長として18年勤務をした経験を元に、保育教職実習前に学んでおくべき知識を教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	講師自己紹介、保育とは何か	自己開示を中心に、「保育とは何か」をイメージして発表する
2	保育とは何か	保育＝教育＋養護である
3	教育とは	就学前教育の在り方と意義を知る
4	養護とは	生命の保持、情緒の安定がなぜ必要なのかを学ぶ
5	学校教育法と幼稚園	日本における幼稚園の歴史概要を学び幼稚園とは何かを学ぶ
6	幼稚園教育要領の概要	幼稚園で行われている教育内容の詳細を学ぶ
7	児童福祉法と保育園	日本における保育園の歴史概要を学び幼稚園との違いを知る
8	保育所保育指針の概要	保育園で行われている保育内容を指針から学ぶ
9	中間まとめ	１から8までの学びを確実に理解する
10	実習の必要性と意義	幼稚園、保育園、施設実習とは何かを知り、役割や重要性を学ぶ
11	実習の種類	見学、観察、部分、責任実習とは何かを知る
12	実習の事前指導①	身だしなみ、服装等を整える必要性を知る
13	実習の事前指導②	オリエンテーションの心構えと持参物 国家資格の意味や意義を理解する
14	実習の事前指導③	観察実習の心構えと実習日誌の書き方
15	前期総まとめ	スケッチブックシアターの実践発表（1人3分）

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	総合演習Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	総合演習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	・保育指導案大百科事典 ・実習日誌の書き方		出版社	一藝社	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	保育教職実習に関して、実習概要や実習前に学んでおくべき知識、実習日誌の書き方などを含めた実習全般について理解する		
到達目標	保育教職に携わるという事はどういうことなのかが理解できている 保育教職の知識を子どもたちの興味を引く保育内容に変化させて表現することができる 身体的にも精神的にも「自分としてのベスト」を尽くせる状態で次年度の実習に参加することができる		
評価基準	テスト・レポート：60%　　授業態度：20%　　提出物：20%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	教育方法論、教育実習、保育実習Ⅰ・Ⅱ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	白相　奈津子	実務経験	○
実務内容	保育園で36年、内園長として18年勤務をした経験を元に、保育教職実習前に学んでおくべき知識を教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	観察実習の事後指導①	日誌の書き方の振り返り、実習内容の振り返り
2	観察実習の事後指導②	実習中のエピソードをもとに保育者の視点を学ぶ
3	指導案について①	指導案とは何かを学び、書き方の基本を覚える
4	絵本の読み聞かせ実践	絵本の読み聞かせ実践を学び、グループで行う
5	指導案について②	絵本の読み聞かせ実践を指導案に落とす
6	ゲーム遊び実践	フルーツバスケット、椅子取りゲームを行う
7	指導案について③	ゲーム遊び実践を指導案に落とす
8	乳児の発達と0歳児保育	0歳児の発達を知り（新生児、乳児、幼児などの概念）保育者としての関わり方の技術や心構えを学ぶ
9	1歳児から2歳児保育	1、2歳児の発達を知り、保育者としての関わり方の技術や心構えを学ぶ
10	3歳児保育	3歳児の発達を知り保育内容を考え指導案に落とす
11	4、5歳保育	4、5歳児の運動遊びの保育内容を考え指導案に落とす
12	後期総まとめ 保育発表会の動機付け	子どもの発達についてのまとめを行う 保育発表会の映像を通じて学びを深める
13	保育発表会に向けて①	保育発表会の活動の中で使用する道具の作成方法や演技・演出のポイントを学ぶ
14	保育発表会に向けて②	
15	保育発表会に向けて③	